

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	統括部局：国際連携機構(国際教育・協力センター) 担当部局：国際連携機構(国際教育・協力センター)
大項目	7 国際交流 (研究科) 《全学的な視点》
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況(院)
小項目	7.0.3 国際教育・協力を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際理解のための教育 (KG2) 国際協力の実践

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 海外からの推薦入試など入試制度を改革し、学部、大学院において2013年度末に定員の3% (713人) の外国人留学生を受け入れ、国際性豊かなキャンパスを実現する。そのために、宿舍提供システム整備、ワンストップサービスの提供と奨学金制度を整備する。	→外国人留学生数、宿舍提供数、外国人留学生へのサービス部門の整備および奨学金制度改革の有無。	B	B	B	B	B
2. 英語による授業のみで修了できるコースを提供する大学院1コース以上設置し、世界に開かれた大学を実現する。	→英語による授業のみで修了できるコースを提供する大学院数	C	C	A	A	A
3. ダブルディグリー制度を、2013年度末までに5大学院で実現する。	→ダブルディグリー制度を有する、大学院数。	C	C	C	C	C
4. 海外客員教員制度を改革し、2012年度から新制度による外国人教員の受入を2009年度比50%増とし、2件以上の共同研究を行う。	→客員教員制度を改革の有無、客員教授受入数および共同研究数。	D	C	B	C	B
5. 海外留学制度の充実を図り、毎年1名以上の優秀な学生を協定大学等の大学院に派遣し、学位を獲得させる。	→派遣学生数および学位取得学生数。	D	D	D	D	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

<p>目標1</p>	<p>B</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2009年度に留学生総合支援課を設置し、外国人留学生用の宿舎提供システムの整備、外国人留学生へのワンストップサービスの提供、奨学金制度改革に取り組んだ。2013年度以降は、国際連携機構事務部の留学生担当がその業務を継承している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2014年4月末現在、留学生は590名(学部・大学院)で、目標数を100余り下回った。留学生奨学金制度の改革により、入学前の採用が可能になった。宿舎については、3寮で合計74室を確保し、受入体制を徐々に整備している。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 新中期計画(後期)において、新中期計画(前期)の目標で未達成であった留学生数を現実的目標650名に修正して、ロードマップを引き直した。そのために、①海外入試の実施などの入試制度の多様化、②大学院海外推薦入学制度等の大学院留学生入試制度の拡充を行う、③125周年記念の奨学金制度を設置し、推薦入試を実施する。</p> <p>その他 留学生の増加に伴い、新たな留学生宿舎の確保が必要(2018年度までに最低80室)。目標の設定が大学院と学部が分かれていないため、目標が不明確になっている。また、指標の中に入試制度学位コースの改革や設置も含める必要がある。</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
<p>目標2</p>	<p>A</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際戦略本部が英語による学位コースの設置を希望する研究科と調整を行い、新中期計画(前期)で、英語による学位コースを運営する上で必要な教員およびスタッフを確保し、理工学研究科が英語によるプログラムを実施している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 従来から英語による学位コースがある経営戦略研究科、総合政策研究科に加えて、2012年度に理工学研究科が新たにコースを設置した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 新中期計画(後期)では、理工学研究科の英語による学位コースを拡充する。研究戦略研究科に新たにジョイントディグリーを設置する。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
<p>目標3</p>	<p>C</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院レベル・受入型ダブルディグリー制度については、各研究科が独自に設置してきた。国際連携機構は、側面的な援助を行った。派遣型・交換型ダブルディグリー制度については、国際連携機構が設置可能な研究科での仲介を行っている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 受入型ダブルディグリー制度: 理工学研究科と従来のサティヤ・ワチャナ・キリスト教大学との制度に加えて新たに国立台湾師範大学(2013年)との間で新たに導入。言語コミュニケーション文化研究科は北京第二外国語大学及び南京大学との制度に加えて、湖南大学(2012年)との間で新たに導入。合計で5プログラムを実施。しかしながら、2研究科のみで、目標の5大学院研究科での実施は達成できなかった。 派遣型・交換型ダブルディグリー制度: 2013年度までには実現に至っていない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 受入型ダブルディグリー制度については、研究科が主体的に開発を継続する。派遣型・交換型ダブルディグリー制度(ジョイント・ディグリー含む)についても研究科が主体的に開発する。国際連携機構は、側面的な援助を行う。なお、現在、経営戦略研究科がリール第一大学との間でジョイント・ディグリーの検討・交渉が開始している。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>

<p>目標4</p>	<p>B</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 海外客員教員制度については、新中期計画(前期)で、国際連携機構(旧国際戦略本部)が中心に改革案を提示して新たな制度を実施した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 目標から1年遅れの2013年度に改革が行われた。新たな制度では英語による全学科目での授業提供を目的とした協定校枠を設け、新たに教員を招聘している。しかしながら、海外客員教員数については2009年度比50%増は達成できていない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 新中期計画(後期)では、海外客員教員制度の見直しを上げていないが、現状でのニーズを調査し、再度制度の見直しが必要である。例えば現行では実施できないノーベル賞受賞者などの著名な学者の招聘を可能にする制度の導入も検討する予定。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
<p>目標5</p>	<p>B</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院レベルの海外留学制度については、2009年度以降、各研究科と国際連携機構が、日本学生支援機構(JASSO)の留学生交流支援制度(長期派遣)を活用した制度を共同で運用してきた。2013年度には、校友課の支援を受け、国際連携機構が海外での修士/博士学位の取得を推進するため、創立125周年記念事業「グローバルリーダー育成奨学金」を新たに設置した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 日本学生支援機構(JASSO)の留学生交流支援制度(長期派遣)を活用した制度については、現在までに派遣者は出ていない。2013年度に設置した「グローバルリーダー育成奨学金」については2013年度に制度を発足させ募集を行ったが、応募者は出ていない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か JASSOの留学生交流支援制度(長期派遣)及び、「グローバルリーダー育成奨学金」の募集を継続して行う。特に後者については、募集方法を見直して活性化させる。また、「グローバルリーダー育成奨学金」を活用し、協定大学等との連携による送り出し制度についても新たに設計する。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
<p>備考</p>			<p>☆</p>

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【全研究科】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	2	2	3	3	3	3	5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	2	2	2	2	1	1	5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	15	17	11	12	11		累計数	
		外国人留学生	正規	人	73	84	93	99	88	95	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	7	7	7	10	6		・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	9.2	10.5	11.0	11.6	10.8	12.3	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.9	1.3	0.8	12.0	0.7		
その他(セミナー等による受け入れ)	人	0	3	3	0	0					
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—		累計数	
		人数	長期	人	1	0	1	2	0		・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	1	0	0	0		・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.1	0.0	0.1	0.2	0.0		海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0		
指標5	海外からの受け入れ教員数		長期	人	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
			短期	人	1	1	1	1	3	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数		長期	人	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
			短期	人	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

【全専門職大学院】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	11	11	12	11	11	10	・5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	6	6	6	5	5	5	・5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—		・累計数	
		外国人留学生	正規	人	21	33	30	30	33	31	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	—	—	—	1	5		・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	3.2	5.1	5.0	6.2	8.9	9.3	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	—	—	—	0.2	1.3		
その他(セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—					
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—		・累計数	
		人数	長期	人	0	0	4	0	0		・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	1	0	0	0		・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0		海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0		
指標5	海外からの受け入れ教員数		長期	人	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
			短期	人	2	1	0	3	4	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数		長期	人	1	1	2	1	1	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
			短期	人	25	27	26	27	30	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)